

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 岡山市立開成小学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()
 住所 〒704-8196
岡山県岡山市東区金田1524
 E-mail : kaiseis@city.okayama.ed.jp
 Website : _____
 児童生徒数：男子 72名 女子 67名 合計 139名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容につ

いては、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

1. 本校のESDの特徴

開成小学校では、「豊かな人間性のある子ども、自分を高めようと努力する子ども、そして、地域や地域の人々とかかわり、共に生きようとする子ども」の育成を目指している。そのため、3つのサブプロジェクトにおいて、以下の目標を設定している。

① 「地域の文化を学ぶプロジェクト」(1年・3年など)

ふるさとの素晴らしさを知るとともに、地域の文化を担う人々に親しみを持ち、地域社会に誇りと愛着をもった児童を育てる。

② 「地域の自然と環境を学ぶプロジェクト」(2年・4年・5年など)

地域社会の自然や農業、特に米づくりについて理解するとともに、地域の自然や環境を保全しようとする意欲や、地域の人々とともに生きようとする態度を育てる。

③ 「持続可能な世界のためにプロジェクト」(6年など)

食や農業に関する世界のかかえる問題と自分の生活とを比較し、持続可能な世界を築くために自分たちはどのようなことができるか考え、実践できるようにする。地球全体に目をむけて考えることのできる広い視野を養う。

このようなプロジェクトを通して、地域の団体と連携しつつ、地域の文化、産業、自然、歴史を踏まえた取り組みを実現し、地域活性化やふるさと開成を愛する心情の育成や、持続可能な地域や社会をつくる事業に主体的に参加し実践していこうとする子どもを育成している。

2. ユネスコスクールとしての活動・全体計画

本校のプロジェクトは、全学年で生活科や総合的な学習の時間、特別活動を中心に、教科との関連を図りながら進める。

① 「地域の文化を学ぶプロジェクト」(1年・3年など)

○第1学年 おとしよりとなかよく(18時間)〈2学期〉

○第3学年 発見!わたしたちのふるさとの昔!ふるさとの祭り!(25時間)〈3学期〉

② 「地域の自然と環境を学ぶプロジェクト」(2年・4年・5年など)

○第2学年 野菜作り名人になろう(11時間)〈1学期〉

生きものなかよし大きくせん(9時間)〈2学期〉

○第4学年 地域の環境を知ろう(20時間)〈1学期〉

学区の歴史を知ろう(11時間)〈2学期〉

わら細工作りに挑戦しよう(7時間)〈2学期〉

○第5学年 「発見!開成の輝く米」(50時間)

③ 「持続可能な世界のためにプロジェクト」(6年など)

○第6学年 開成学区を紹介しよう(10時間)〈2学期〉

発見!世界の問題と私たち(30時間)〈3学期〉

3. 特徴的な活動事例の紹介

第5学年では、「発見!開成の輝く米」と称して取り組み、学区の主要な農産物である米を中心に、環境にやさしい農業体験をする。

①目標

○環境にやさしい農業体験(米作り等)の活動を通して、食の大切さや、安全で健康な生き方について考えることができる。

○地域の人たちの協力を得て、体験活動を行う中で、地域の人とふれあい、お世話になった方に感謝の気持ちをもつことができる。

②実践の展開

【米づくり体験をしよう】〈1学期～2学期〉

地域の方から、環境にやさしい米作り（アヒル農法）の話聞く。田の役割や、米の品質についても学習する。

地域やPTAの方々とともに児童が田植え（もち米）をする。田植え後、生えてくる雑草を食べさせるため、アヒルの雛を田に入れる。地域のテレビ局、新聞へ知らせ、当日、取材をしてもらうことで、地域の良さを発信する。児童は、新聞などにまとめ校内へ掲示したり、農業体験を実施する田の地主の方に感謝の手紙を書いたりする。児童が適宜、稲の生長とアヒルの様子を観察する。

【稲刈り】〈11月〉

地域やPTAの方と稲刈りをする。

【餅つき大会】〈12月〉

地域やPTAの方々に協力していただき、11月に収穫したもち米を使い、全校児童で餅つき大会を実施する。

【食育】〈3学期〉

大きくなったアヒルの肉を調理して食べることを通して、命をいただいて自分が生きていることを実感する。

③成果と課題

子どもたちは、自分たちの住んでいる開成学区の先人や地域の方が地域の環境を考えた米作り等に取り組み、これからも豊かな農業が発展するように努力していることに目を向けたり、食の大切さや安全で健康な生き方について考えたりすることができるようになってきている。

4. 本年度の成果と課題

○成果

①学校としての成長

・これまでの教育活動をESDの視点や観点から見直すことができ、ESDについての理解が教職員に少しずつ広がった。

②子どもたちの成長

・自然あふれる地域を自分たちも大切にしようという気持ちを持ち、学習や体験活動を通して、開成学区の素晴らしさを実感している。また、地域の人たちの協力を得て、体験活動を行う中で、地域の方やお世話になった方に感謝の気持ちをもつことができている。

○課題

- ・来年度は、活動内容の充実に向けて、校内の推進体制の確立と研修を充実させていく必要がある。
- ・自分たちの住んでいる地域から広がって地球規模まで考えを広めていくことは、あまりできていないので、来年度はその点を意識して活動の工夫をしたいと考えている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

■ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（ ）